



The Star in the West

東京西ワイズメンズクラブ会報

THE SERVICE CLUB FOR THE YMCA

THEY'S MEN'S CLUB OF TOKYO-NISHI(03)3202-0342

c/o TOKYO YMCA YAMATE CENTER.2-18-12 NISHIWASEDA, SHINJUKU-KU, TOKYO 169-0051, JAPAN

国際会長主題
アジア会長主題
東日本区理事主題
あずさ部部長主題
東京西クラブ会長主題

“Let Us Walk in the Light-Together” 「ともに、光の中を歩もう」
“Respect Y's Movement” 「ワイズ運動を尊重しよう」
「広げよう ワイズの仲間」
「継続は力なり・一歩でも前に・そしてあがこう」
「休まず たのしく 元気よく」

2017年8月号
NO 492

また、群衆が飼い主のいない羊のように弱り果て、打ちひしがれているのを見て、深く憐れまれた。そこで、弟子たちに言われた。「収穫は多いが、働き手が少ない。だから、収穫のために働き手を送ってくださるように、収穫の主に願いなさい。」
マタイによる福音書9：36-38

CS活動に思う

神谷幸男

ある小冊子で南スーダン避難民支援活動している活動家のレポートを読んだ。内容は省略するが最後に「南スーダン避難民支援にご協力を」との見出しで「南スーダンでは約 500 万人もの人々が飢餓に直面しています。内戦と地球温暖化に伴う大干ばつで、国全体が大ピンチなのです。この夏から秋にかけて『南スーダン救援募金』に取り組み、11 月にもう一度避難民キャンプを訪問して食料と医薬品を配りたいと考えています。九州の洪水被害で自衛隊が災害救助に当たっています。自衛隊を災害救助隊と国境警備隊にして『紛争地にはいかない』ことを決め、紛争地での人道支援は国連、赤十字、NGO がその任に当たる、と役割分担すべきではないかと思えます。やはり非武装の NGO だからこそ、狙われず、

低予算で『辛い所に手が届く』支援ができます。引き続き、ご支援をよろしく願います。」と締めくくっている。これらの避難民救援活動はこの活動家ばかりでなく、UNESCO、UNHCR 等々大きな団体から、知られていない多くの団体に取り組んでいるし、特記すべきほどの話ではないが、なぜかわたしにとってある感動を覚えた。自らの思いを命がけで行っているというところであろうか。そして突飛ではあるがワイズの CS 活動に思いを馳せたのである。

「隣人を思いやる」課題は世界的レベルのものから身近な所にもある。自分のクラブに相応しい「隣人を思いやる」業（課題）を真剣に見出すことが求められている。CS 活動が活発に行われてこそ我々の地域にワイズメンズ

クラブの存在及びその社会的貢献が世に明確に認知されることは百も承知なのだが、諸般の事情によりこれが思うに任せない。しかし、たとえ世に名前が知らしめられなくても、また直接的でなくても間接的に地道に地域奉仕事業を行うことは出来る筈である。

事実杉並においても、対障がい者、高齢者、貧困児童支援や共に楽しむプログラムの実施、花を植える、ゴミをなくす等の街の美化、子ども達の健全育成、対成人の教養高揚等々に取り組んでいる名もない団体や小グループが多数ある。個人的に同じ思いの仲間を集めて取り組むことは比較的容易ではないかと思うが、既存のクラブの全員の合意でこれらに取り組める課題を見出すことが難しいが、これに皆で挑戦に努めたいものである。

クラブ役員

会長 本川 悦子
副会長 石井 元子
書記 篠原 文恵
会計 村野 絢子
担当主事 宮崎 純

7月の記録			ニコニコ	11,000円	
在籍者数	16人	メネット	1人	クラブファンド	2,345円
(内功労会員)	1人				
出席者数	13人	コメント	0人	ファンド残高	177,646円
メーキャップ	1人	ビジター	4人	ホテ校ファンド	6,500円
出席率	94%	ゲスト	2人	ホテ校残高	16,282円
前月修正	-	出席者合計	20人	WHO参加者	一人

8 月納涼例会のご案内

今月の強調テーマ： CS

8 月例会は恒例の納涼例会です。暑い夏の宵のひとつを美味しい料理を食べ、美味しいお酒を嗜んで暑さを吹き飛ばしましょう。そして一層の親睦を深めて参りましょう。会場は、この秋にわがクラブがホストする部会の会場である神楽坂の「日本出版クラブ会館」のレストランです。知人・友人を誘って集まりましょう（東日本区の「インビテーション 例会への知人・友人の招待／見学」キャンペーン中です）。

日時：8月17日(木) 18:45~21:00
 会場：「日本出版クラブ会館」
 1Fレストラン「ローズルーム」
 (新宿区袋町6番地 TEL 03-3267-6111)
 会費：4,000円
 担当：B班(石井、神谷、河原崎、宮崎)

開会点鐘
 ワイズソング
 聖書朗読・感謝
 会食

一言スピーチ

ビジター、ゲスト、メンバー、メネット

ハッピーバースデー

諸報告 会長 他
 YMCA 報告 担当主事・宮崎 純
 ニコニコ献金 一同
 閉会点鐘 会長・本川 悦子

HAPPY BIRTHDAY

4日 篠原文恵 13日 神谷幸男 15日 本川章 17日 山田利三郎
 18日 河原崎九州男 21日 宮崎香 31日 竹内隆

- 7月第2例会(事務会) -

日時：7月27日(木)
 18:15~ 部会準備委員会
 19:15~21:15 第2例会
 場所：あんさんぶる荻窪 1F
 出席者：石井、大野、神谷、篠原、
 高嶋、本川、村野、吉田
 <報告事項>

- ①7月のデータを確認した。
 ②7月次会計報告を承認した。
 ③7月ファンド実績が報告、承認された。

<協議事項>

▲8月納涼例会

日時：8月17日(木)
 18:45~21:00
 場所：日本出版クラブ会館
 会費：4,000円
 担当：B班(神谷、石井、
 河原崎、宮崎)

▲8月第2例会

日時：8月24日(木)
 19:15~21:15
 場所：あんさんぶる荻窪 1F
 第1会議室

▲9月例会

日時：9月21日(木)

18:45~21:00
 場所：あんさんぶる荻窪 4F
 第2教室
 卓話：「YMCAのブランディング」
 東京YMCA 副総主事
 星野太郎氏
 担当：C班(山田、大野、篠原、
 村野、小山)

- ①神崎清一さん(日本YMCA 同盟総主事)の転入会を承認した。
 ②片平進一さんの仕事の都合による6月末での退会を承認した。
 ③庄野久男さんが、今後1年間功労会員として承認された。
 ④WHOの会計監査を高嶋さんにお問い合わせする。
 ⑤東京YMCA 夏祭りへの提灯の提供(寄付金)を承認した。
 ⑥チャリティーランへの協賛を決めた。

<報告事項>

①準備委員会で進められてきたあずさ部会(10月21日)の内容を8月17日の第7回委員会で最終的にまとめて、8月第2例会で報告する。

②大野あずさ部長のあずさ部クラブ公式訪問は、7月末現在で甲府21・甲府・東京サンライズ・東京山手・長野クラブが終わったことの報告がされた(詳細はクラブ訪問同行記)。

(書記・篠原文恵)

あずさ部会のお知らせ

日時：10月21日(土)
 11:30~15:00
 会場：日本出版クラブ会館
 (神楽坂)
 会費：6,000円
 申込み締切り日：9月30日

詳細は8月末までに、チラシ第2報として各クラブ宛に郵送させていただきます。懇親会では琉球舞踊を鑑賞して頂いた後、皆で一緒に踊ってみませんか？





あずさ部ヤッホー評議会

あずさ部ヤッホー評議会に出席のため、7月15日午前6時50分に荻窪から大野さんの車で出発しました。同乗者は東京西クラブ女性4人です。当日は連休の初日とあって、中央道は大変な渋滞でした。それでも予定時間を少し過ぎたくらいで、会場がある松本に到着しました。

今年度第1回の評議会が大野新部長のもと、ホスト松本クラブの金井宏素さんの司会で進行了ました。

これまではワイズの行事に参加しても、傍観者の気持ちで臨んでいましたが、今年度は一番前の会長席に座った時は緊張しました。評議会が終わって懇親会では、グループに分かれてクラブのこと、あずさ部についてディスカッションをしましたが、和気あいあいと話し合いをしました。クラブ、部、そしてワイズが抱えている課題は大変ですが、やはり集まって楽しいが一番だと思いました。軽食に出されたかつサンドをととてもおいしくいただきました。松本クラブのおもてなしに感謝します。松本クラブは東京からはいちばん遠いクラブですが、距離を感じないくらい景色や車内の会話を楽しみながらのドライブでした。うるさい女性軍を、静かに運んでくださった大野さん、ありがとうございます。

当クラブからの出席者は、石井、大野、神谷、神谷M、篠原、鳥越、本川、吉田の8人でした。
(本川悦子)

盛り上がった初例会 — 7月例会報告 —

7月20日は初例会。開会前から明るさと熱気がありました。

今年度会長は本川悦子さん。これまで、“前”“元”会長が多く、“初”会長は、4年前の木原洗さん以来、その前は、2008-2009年の大野貞次さんまで遡ります。前年度、やむを得ない4人の退会があり、全員が新会長を中心になんとかしようという思いと期待があるのです。今年度あずさ部長に大野貞次さんが就任し、他クラブとの交流も増えて気持ちが前向きになっています。

最大のプレゼントは、4月に日本YMCA同盟総主事に就任した神崎清一さんの転入会。同盟総主事が会館を持たないクラブに入会した例は、過去にありません。

和やかな会は、鳥越成代さんのメリハリある司会で進みました。ちょっと緊張感があったのは、お弁当が2折少なかったからか。

卓話は、「YMCAのブランディング」でしたが、神崎総主事は、日頃YMCAの会員活動、事業に触れる機会の少ない、当クラブのメンバーに配慮されてか、自身の体験を加えて、YMCAの幅の広い活動とその意義について語られました。「YMCAの歴史」「Yの初めて物語」「基本原則」「規模」「推移」「ロゴマーク」「Yが思う健康」「平和な社会」、そして最近語られる「若者主体の社会づくり」「ポジティブネットワーク」など。今後、それぞれが興味、関心をもった糸口から学ぶこ



7月キックオフ例会：左から神崎清一さん、本川会長、大野あずさ部部长

とになります。会員としての神崎さん、担当主事の宮崎純さん、東京Yに2年間出向中の大石英良さんも、住まいが近いので例会にも出られそうで、講師陣が急に豪華になりました。(吉田明弘)

出席者：石井、大野、神谷、河原崎、神崎、小山、篠原、高嶋、鳥越、本川、宮崎、吉田、山田。<メネット>神谷M、<ゲスト>大石英良(大阪Yホテル学校スタッフ)、福島多恵子(元東京目黒メネット)、<ビジター>菰渕光彦(東京サンライズ)、小口多津子・長谷川あや子(東京八王子)、藤江喜美子(東京たんぼぼ)、<メイキャップ>村野(アジア地域大会)。7月号の東・西日本区大会参加者に村野絢子さんを追加。

YMCA Today

◇【九州北部豪雨災害緊急支援募金】YMCAでは、被災地での緊急支援活動として、必要な物資の支援、また瓦礫撤去などのためのボランティアの派遣、避難所の支援活動などを中長期にわたって支援いたします。緊急支援活動に加え、自然の脅威にさらされた子どもの心のケアプログラムを複数年にわたり継続し、子どもたちが元気になることによって、地域が復活していくことを目指します。皆さまからいただいた募金は、日本YMCA同盟で集約し、被災地復旧ボランティアの派遣、子どもたちの心のケアキャンプに用いさせていただきます。皆さまのあたたかいご支援をお願いいたします。(担当主事・宮崎 純)

大野あずさ部長公式訪問同行記

甲府21クラブ

部長就任4日目の7月4日(火)、激しい降雨の中、例会場の割烹石川に開会30分程前に到着。キックオフ例会とあって、大野部長のあいさつに続き、前年度の事業報告・会計報告が審議され、また今年度の事業計画・会計予算が審議されいずれも全員一致で承認された。新旧会長交代式はバッジ交換のみの簡潔に終了。新入会員を含め賑やかかつ闊達な例会であった。(神谷幸男)



甲府21クラブ：ゲスト・ビジターと共に

甲府クラブ

大野部長の車に便乗し、交通事情極めて順調に開会1時間前に会場ホテル談露館に到着した。開会までの間も準備のために忙しくしているメンバーとの談笑もまた楽しからずや。

7月とあってキックオフ例会。開会セレモニーが以前と変わったようであるがそれはそれとして、開会点鐘、ワイズソング、ワイズの信条唱和と続き、連投の丹後会長の退任挨拶に続いて新会長挨拶、ゲスト紹介の後、大野あずさ部長の挨拶が述べられた。「今月のことば」は布能壽英さんが健康上の理由で欠席され、代読でことが進んだ。その他の方も高齢の為に欠席された方が多く、懐かしい方にお会いできないこともあってちょっと淋しい思いであった。

次いでワイズディナー。毎回、このような豪華な食事。食事も例会の楽しさを盛り上げる重要な要素であることを実感した。食

事の後には年初とあって総会。きちんとした会議はさすが長老格クラブであることを実感した。

(神谷幸男)



甲府クラブ：毎回豪華なワイズディナー

東京サンライズクラブ

大野あずさ部長に同行し、初めて東京サンライズクラブを訪問しました。江原新会長の開会点鐘で例会が始まりました。会長の人柄が出て終始和やかな雰囲気です。楽しいクラブでした。

卓話は、もしかしたらお世話になるかもしれない介護の話でした。現役のデイサービスの所長さんが、介護の現場の話と介護保険の話をして、申請の仕方から受けられるサービスの種類など分かりやすく説明をしてくださりました。

卓話の後には美味しいワインとそれに合った数種類のチーズとパンが出ました。気持ちよく酔いがまわったところで会長の閉会点鐘で閉会となりました。部長の同行で他クラブを訪問しましたがとても良い経験をしました。

(本川悦子)



東京サンライズ：本音で語る2次会

東京山手クラブ

7月18日(火)、山手センター

で行われた東京山手クラブ例会に初参加しました。いつもキャップに沢山のバッジをつけて各集會に参加なさる我妻会長は、当日は正装の背広姿、他のメンバーの皆様にも改めてご挨拶、少し緊張しながらお話を伺いました。

卓話は星住秀一・山手センター主任主事の「YMCAの現状」。卓話の後の話し合いでは、メンバーが減り続けるワイズの未来は、まずYMCAで働く方が生き生きと活動できることから続いていくのでは、という結論に至ったように感じました。(篠原文恵)



東京山手クラブ：ゲストとビジターが8人

長野クラブ

7月19日(水)、例会が始まる前から新メンバーの方々との交流が始まり、活動の様子を伺った。森本会長による事業報告・決算書は詳細な情報が満載。会長の熱意が伝わりました。

報告の後にはワインも登場し、全員が自然に会話に参加する形式で、善光寺参道にある古民家風で趣きのある会場も、オーナーが安価で使わせてくれていると聞き、Yへの理解はメンバーになること以外にもあると感じました。

(篠原文恵)



長野クラブ：古民家風の会場で

☆☆ インタビュー ☆☆ 若木一美さんに聴く

* * *

若木一美さん（横浜とつか：写真左側）は、クラブのチャーターメンバー。2016-17年度は、湘南・沖縄部長を務められました。



一若木さんは、元横浜 YMCA 総主事、高橋四郎さんをご存じだったのです。高橋さんは、私の中学時代の同級生の親父さんです。

「そうですか。高橋さんは、レクリエーションやゲームの指導をされ、著書もたくさんあります。私にとって、ボランティア活動の原点である神奈川県ユースホステル協会の会長をされていて、レクの3種の神器（ゲーム・ソング・ダンス）を教えてくださいました」

一レクリエーションとは、どのようにかかわってこられましたか。

「小学5年生の時、隣席の女子が『おてんば連合』と書いた会員証を落としたことに始まります。冷やかしたら毎日昼休みに女子5人組に呼び出され、今でいう『いじめ』を受けました。でも、その1人の『若木君もこういうことをすると楽しいわよ!』の一言が脳裏に残りました。高校に入学した時、1級上の先輩に鎌倉ユースホステル協会の役員をやらないか? と誘われ、あの一言が気になっていたので引き受け、高校生で、子どもの野外活動のリーダーをしました。直後に開館した県立鎌倉青少年会館で青少年やレクの学習をし、10年間、神奈川県レクリエーション協会の理事長も務めました。先日、亡くなられ

た元国際会長の竹内敏朗さん（熱海グローリー）は、日本のレクリエーション発展に寄与されたおひとりです」

一踊りもやられていますね。

「私は踊りませんが、日本民踊・新舞踊協会湘南支部支部長と神奈川県支部民踊連盟の副会長を務め、日本の伝統文化継承に微力ながら関りを持たせていただいております」

一レクリエーションとか、ボランティアには、リーダーシップの問題がついて回りますが。

「リーダーシップには、いろいろなタイプがありますが、一番大切なことは、明るく・楽しく・元気よく、私心私情を超えた寛容の精神を持つことだと思っています」

一お仕事は、建築関係ですね。
「父親が土地家屋調査士・建築士事務所を自営していましたので、引き継ぎました」

一仏教に関係の深いお家柄と聞きました。

「母の実家は浄土宗の高僧、幡随意白道上人が出家した寺です。上人は、家康に命じられて、キリシタン改宗のために九州に行っています。従兄弟は僧侶、親戚にも住職が多くいます。でも、一人の従兄弟は青年海外協力隊帰国後、しばらく横浜 YMCA で英語を教えてくださいました」

一どんな子どもでしたか。

「小学校であの5人組に会うまでは、しゃべらない、おとなしい子でした。新幹線の運転手さんになりたいと思っていました」

一ワイズに入会の動機は。

「考えてみると、いつも YMCA を横目で眺めていました。1994年、湘南とつか YMCA 開設時に親しかった吉村恭二元総主事からクラブ作るけどどうだいと言われました。鎌倉青少年会館館長をしていた横浜クラブ高杉治興さん（横浜）からも以前からワイズのことを聞いていました。この世界、お世話になっているこのお

二人から誘われたら断れないでしょう」

一YMCA 以外でも活動されていますね。

「主な活動は、県青少年協会や県立公園の評価委員など。かながわ女性会議では、設立時から女性の課題にも取り組んでいました」

一お仕事とどのように折り合いをつけておられますか。

「時間を作りながら自分の自己啓発のために活動しています。誰のためでもなく、自分自身のための学習ですから」

一ワイズの会員増強に、何か問題を感じられますか。

「私世代が過渡期だと思いません。私世代以下は団体活動の経験が乏しいので、現在ワイズの運営の中心にいる方々とは感覚が違います。同期生をみても活動内容ごとに仲間がつながっています」

一意義のあり興味がある活動内容ごとに集まる現代の志向と、ワイズのような例会中心のクラブ活動との接点が課題なのですね。若木さんは、ワイズメン、YMCA の良い点は何だと思われていますか。

「人と人、活動と活動、問題と問題を繋ぎ、課題解決に取り組もうとしていること、価値観の異なる人々との出会いや活動を通して、人間が幸せに暮らせる世界を目指していることだと思います」

一平成20年度に生涯スポーツ功労者として文部科学大臣表彰を受けられましたね。

「よくご存じで。受賞後、先ほど話した5人の女の子(?)に感謝の会をさせていただきました。その時、ほとんどの人があの“いじめ”を覚えていて、その一言を言った人も覚えていました。人との出会い、そのままです。そして、ちょっとした一言の大切さ、怖さを忘れずに、これからも微力ですが、活動を続けます」

一ありがとうございました。

(吉田明弘)

2)入浴事故と高齢者

日本人は入浴好きで有名である。温泉につかって一杯飲むのが至福の時と言う。温泉人気は言うまでもないが家庭の入浴頻度も高い。毎日浴槽に浸かっている人の割合は、アメリカでは10人に1人で、日本では夏でも3人に1人以上、冬なら2人に1人であると言う。望ましい習慣である。しかし高齢者にとっては、入浴は時に凶器に変わる。過去に高齢の友人・知人・患者さんの多くをお風呂の事故で失って悔しい思いをしている。

85歳の友人の1人は、前夜の仕事の成功にやれやれと、入浴しそのまま入眠して翌朝、溺死体で発見された。風呂場に本を持ち込む癖があったと言う。

高齢者にとっては他人事ではない。東京23区で年間1万4千人との報告がある。溺水・溺死の他、入浴中の高齢者の心・脳疾患の発作による病死である事が多く、交通事故死を上回る。本人だけでなく周囲の家族の一寸した心がけによっては十分に避ける事が出来る。

私は、若い頃は熱いお湯に我慢

して身体を縮めて入浴していたが、「抗加齢医学」を知ってから、38~39度のぬるめの湯(冬場は1度高く)に数分つかり、上がり際に39~40度に温度を上げる事を実行し、高血圧にも支障なく今日に及んでいる。体温の変化の予防のため、脱衣所も暖かくしている。勿論、眠気を催したらすぐに上がる事になっている。一般的には事故防止のために「湯温は41度以下、湯につかる時間10分まで」を目安に指導されている。折角の長寿をお風呂で無にする事はない。

シゲとあーやの子育て① 村野絢子

「クリスマスホームを作りたい」とシゲは、言った。小学校の通学路にあった教会に通い、二十歳の誕生日に洗礼を受けてクリスチャンとなった。あーやは、カトリック系の学校の世界史の教師が「ルターは教会の壁を汚す悪魔だ」と教える言葉に反発し、通っていた教会で洗礼を受けた。母

方の先祖宮津藩士、川口通礼の妻花から教えて4代目のクリスチャンとなった。

シゲとあーやには5人の子供が与えられた。幼児洗礼は全員受けているが、今現在2人が信仰告白をして5代目クリスチャンとなっている。シゲは結婚するとき、「君には自分の目で社会を見て欲しい」と言った。母は小さい時から「どんな時も、あなたを見ていて下さる方がいるのよ」と

教えた。

教会の友人宅で、幼い坊やが机から落としたバナナを拾って口に入れた。「見ていない間に何を口に入れるか分からないわね」と大らかなこと。トイレトレーニングの白鳥のおまるに座って「えへへ」と笑顔が可愛い。子育ては大らかに楽しんでするものと学んだ。

私は産み、育てるのは神さま。よろしくね。

27回アジアパシフィック大会

7月21~23日の3日間、タイ王国チェンマイで開かれた大会に参加しました。今回からオーストラリアが加わってアジア大会がアジア・パシフィック大会となりました。参加国はタイ、フィリピン、スリランカ、オーストラリア、台湾、南東アジア、東・西日本区でドイツ・カナダ・インドが1~2人ずつ約300人でした。

国中が1年間の前国王の喪中で、教育副大臣の基調講演も国王をしのぶスピーチでした。晩さん会ではタイの民族舞踊を鑑賞後、各国の出し物、日本の東日本区は「上を向いて歩こう」「幸せなら手を叩こう」、西日本区は浴衣や豆絞りの鉢巻きの人もいて「炭坑

節」と振り付きで会場を巻き込みました。2日目は5つのテーマの協議会、6コースのエクスカージョンもあり、3日目はコースの報告。2018年に韓国麗水(ヨス)で開かれる国際大会のアピールがあり、2019年次回のアジア・パシフィック大会は仙台で開かれることが決定しました。

今回の長澤弘ツアーのグループは、顔なじみの大澤和子さん(所沢)、利根川恵子夫妻(川越)佐藤茂美さん・進藤重光さん・田中博之夫妻(東京)と、あずさ部で関係のできた初対面の松本クラブの正木岳馬夫妻、北村豊さん、お孫さんと参加された金井宏素さんでした。前日参加の藤井寛敏夫妻(東京江東)も合流し、緊

張しない楽しい研修旅行でした。

編集後記

いつもながら、執筆していただいた方々にお礼申し上げます。今月は、大野部長の各クラブ公式訪問に同行した方々に、各クラブの様子や感想を執筆していただきました。少々しんどかったかと思いますが、そのしんどさ以上の喜びも得られたものと思います。まだ訪問が終わっていない、クラブの同行記は、次月号以降となります。

今月も発行が遅くなってしまいました。編集者自身の原稿提出の遅れでした。面目次第もございませんでした。(SK)